

住友化学株式会社との連携事業による CO₂ 排出量削減

広栄化学は、このたび、温室効果ガス排出削減に向けた取り組みの一環として、千葉工場（千葉県袖ヶ浦市）における既存のコージェネレーション設備を廃止し、不足する電力及び蒸気を、隣接する親会社の住友化学株式会社 千葉工場（千葉県市原市）が新設する設備（2023年秋に完成予定）から受給することといたしました。

住友化学は、温室効果ガス排出削減に向けた取り組みの一環として、同社千葉工場内で運転している火力発電設備のうち、石油コークスの使用を廃止し、CO₂ 排出係数の低い液化天然ガス（LNG）を燃料とする高効率なガスタービン発電設備を新設します。

広栄化学は、同設備から電力及び蒸気を受給することで、千葉工場から排出される CO₂ の約 6% に相当する年間約 3,000 トンの CO₂ 排出量を削減できる見込みです。

なお、今回の取り組みは住友化学との連携事業として、経済産業省による令和 2 年度「省エネルギー投資促進に向けた支援補助金（エネルギー使用合理化等事業者支援事業）」の交付が決定しています。

住友化学グループは、「事業活動を通じて人類社会の発展に貢献する」を経営理念に掲げており、2018年10月には総合化学企業として世界で初めて Science Based Targets（SBT）イニシアチブによる認定を取得するなど、温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいます。当社もグループ会社の一員として、気候変動問題をはじめとする社会課題の解決に積極的に取り組んでまいります。

以上

（ご参考）

千葉工場に高効率なガスタービン発電設備を新設 ～年間で 24 万トン以上の CO₂ 排出を削減～

<https://www.sumitomo-chem.co.jp/news/detail/20201005.html>